

事業所における自己評価結

公表：令和6年3月31日

事業所名：重症心身障害児向け児童発達支援・放課後等デイサービス ふわっと

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	0	
	②	職員の配置数は適切である	7	0	0	法律で規定されている人員配置にプラスして、利用児と職員数が1：1になるように職員数を配置しています。 * 無回答 1
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0	0	
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	1	0	PDCAサイクルとして目標設定と振り返りを職員全員で共有する取り組みはしていませんでした。次年度は、職員会議で目標とふり返りの共有をしたいと思います。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	0	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	0	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	3	1	第三者による外部評価は現在行っておりません。今後、検討していきます。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	0	
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	3	0	重症心身障害児のお子さんは個別性が高いため、標準化されたアセスメントツールの適用は不適切と考え、個別にお子さんの状況を職員間でカンファレンスしアセスメントしております。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	0	日々の活動については、打ち合わせて話し合っていて決めています。また、行事は職員会議で全員で打ち合わせをして決めています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	0	同じことを積み重ねることでのお子さんの成長や変化を大切にしています。同じように見えることでも、お子さんの変化に応じて少しずつ関わりを変えています。また、出来るだけお子さんたちの体調に合わせてながらですが、季節の行事も行えるようにしております。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	0	0	
⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0		

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	8	0	0	
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	0	
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0	
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0	
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7	1	0	対象が重症心身障害児のため、当事業所では「こころ」「からだ」「社会関係力」の3方向からの関わりを複数組み合わせ、偏りのないよう全人的に支援をしています。
	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	0	
	㉑ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8	0	0	
	㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	0	0	
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2	0	小学部の新入生がないため、左記のような情報共有はしていません。今後、必要が出てきたら実施いたします。
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	3	0	該当児はいないため、実施していません。今後、必要時実施していきます。
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	0	児童発達支援センターや他の児童発達支援事業所の方が、ふわっとに見学や研修にいらしています。お子さんについても、必要時お電話で情報共有しています。
	㉖ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	1	5	障害のないお子さんとの交流は、コロナ禍ということで、感染予防を優先して、機会を作りませんでした。ふわっとのお子さんたちは重症心身障害や医療的ケアのあるお子さんたちであり、感染しやすい状態のお子さんが多く、感染症にかかると重症化・長期化しやすいお子さんが多くいらっしゃいます。そのため、障害のないお子さんとの積極的な交流をふわっとご利用時間帯に行うことに関しては、保護者の方々のご希望もふまえながら慎重に検討していきたいと思っております。その上で、次年度は少しずつ近隣の保育施設等との交流を開始できればと思っております。
	㉗ (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	1	1	6	開所からまだ2年で、コロナ禍だったということもあり、地域活動への参加は行なえていません。コロナ禍も脱したので、次年度以降は少しずつ地域活動への参加を検討していきます。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	8	0	0	
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	6	1	1	ペアレントトレーニングは実施していませんが、家族支援は、ご 自宅へのお送りの時や、ご家族が送迎でふわつとに來られた時 に、毎回10分～1時間程度、ご家族と家庭環境や育児状況 等についてお話をする時間を、積極的に作っています。
保護者への 説明責任等	㉒	運営規程、支援の内容、利用者負担等に ついて丁寧な説明を行っている	8	0	0	
	㉓	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	0	
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	7	1	0	長期休みに保護者の方にふわつとまで送迎していただくことで、 保護者の方たち同士の交流にもなることを期待しておりました。 それでは、同じ曜日の保護者の皆さま同士の交流のみとなり、 不十分ではあったと思いますので、次年度からは保護者会を開 催する予定にしております。
	㉕	子どもや保護者からの苦情について、対応の 体制を整備するとともに、子どもや保護者に 周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に 対応している	8	0	0	
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に 対して発信している	8	0	0	
	㉗	個人情報に十分注意している	8	0	0	
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	8	0	0	
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等地域 に開かれた事業運営を図っている	3	1	4	コロナ禍のため感染予防を重視し、地域住民との積極的な交 流の機会は設けていません。次年度は、災害対策について、 地域の自治会と共同で取り組むことを検討中です。
非常時等 の対応	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に 周知している	8	0	0	
	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難、 救出その他必要な訓練を行っている	8	0	0	
	㉜	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	8	0	0	
	㉝	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うか について、組織的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後 等デイサービス計画に記載している				該当児なし
	㉞	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	8	0	0	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	0	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。